

茶業におけるスマート農業技術について近隣の県と意見交換

茶業におけるスマート農業技術の活用促進を図るため、静岡県だけでなく、共通する課題を抱える近隣の県や農研機構を含めた意見交換を行った。

○ 施策分類

新技術

○ きっかけ・背景、課題の把握

静岡県の茶産地は、中山間地が多く農家の規模が小さい、担い手の減少・高齢化といった課題を抱えており、スマート農業技術の導入・活用が不可欠となっている。こうした課題は近隣の茶の生産県でも共通のものであることから、静岡県のみならず、近隣県が集まった会議を開催し、意見交換をすることとした。

○ 取組の内容

静岡県拠点が中心となり、関東農政局と東海農政局が合同で1月21日に「スマート農業技術による茶業の未来会議」を開催した。会議は対面を基本としつつ、WEBでの配信も行い、両農政局管内の茶の主産地である8県と農研機構が参加した。

参加県に対しては、事前に、「欲しい技術」「茶園管理機のロボット化の可能性」「ドローンの活用」「収穫適期診断技術の将来性」等についてアンケートを行い、当日の会議では農研機構の専門家も交えて、技術的な面も含めた意見交換を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

参加した県からは、「他県の取組状況等を聞くことが出来る貴重な機会だった」「近隣県との問題意識の共有ができた」などの声があった。今後も地域の要望を踏まえ、現場に情報を届ける取組を進めていきたい。

- 1 スマート農業技術導入の現状
- 2 スマート農業をさらに導入していくことへの課題
- 3 スマート農業技術の導入に係る県の取組
- 4 国や農研機構等への要望



参加各県の発表項目

静岡県が実証した技術

